TTC山行実施記録表

2011年3 月6 日　報告者:門間　桂子

山行名	**大山山塊縦走(土山峠～鶴巻温泉)**　〔 神奈川県　1252m 〕
実施月日	2011 年 2月 26日[土] ～27日[日]　公共交通利用
天候／参加人員	天候:晴れ(2日間とも)　レベル:★★★　参加人員(申込: 6名、参加: 4名)
ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	CL:　SL:　救護:　会計:　氏 名 削 除
参加メンバ	氏 名 削 除　[男性: 3名、女性: 1名]
費用 **¥1270/1人** **TTCｶﾝﾊﾟ金** **¥0**	支出: 食料代:￥4,010、ガスボンベ:@535*2=¥1,070　合計¥5,080 (公共交通費は各自支払い) 1人当たり¥5,080÷4人=¥1270

実行ｺｰｽﾀｲﾑ

1:14'　49'　1:54'(途中休憩10')　17'　37'
千頭橋ﾊﾞｽ停＝＝＝土山峠ﾊﾞｽ停―――辺室山―――物見峠―――――――ノ沢峠下登山口―――ノ沢峠―――小ピーク―――
7:14　7:38-50　9:04-10　9:59-10:06　12:10-26　12:43　13:20-39

31'　23'　28'　15'
―――913m鉄塔―――ミズヒノ頭―――西沢ノ頭―――大山山頂下テン場
14:10-22　14:45-52　15:20-25　15:40着

25'　25'　18'　17'　26'　38'　42'
大山山頂下テン場―――大山山頂―――16丁目―――下社との分岐―――蓑毛越―――休憩―――高取山―――念仏山―――
5:00起床―6:30出発　6:55-7:10　7:35　7:53-8:05　8:22　8:48-57　9:35-47　10:29-34

36'　40'
―――休憩―――弘法の湯

歩行／行動時間

		歩行時間	休憩時間	行動時間
2/26[土]	計画時	6:30	1:30	8:00
	実行時	6:28	1:22	7:50
2/27[日]	計画時	5:00	1:30	6:30
	実行時	4:27	1:03	5:30

(沿面)歩行距離	累積標高差(+)	累積標高差(-)
10.8km	1444m	-593m
12.3km	372m	-1508m

コースの概要
特記事項
反省事項・等

S.kさんの奥様に甘えて、千頭橋バス停まで送っていただく。奥様には毎回お世話になりありがとうございます。紙面をかりて数10回分のお礼をまとめて申し上げます。当初予定していたK.tさんが、仕事の都合で途中からの合流になる予定である。万が一合流できないことも危惧され、K.tさんには個人山行という形で参加していただくことにした。今回は大山山塊縦走が目標であるが、さらにアクシデントに見舞われた時を想定してのビバーク山行も兼ねている。

バスはすでに満席に近く煤ヶ谷あたりまでは立っていく。簡単に体操をすませ、登りにかかる。辺室山までは緩やかな坂道を延々と登っていく。物見峠に到着。そこから先は「道なき道」を歩くことになる。文字どうり道なき道は途中で崩壊した個所が現れ、断念した。このような道を得意とするリーダーはルンルン気分で先頭を行く。私と約1名は無駄な回り道ではなかったかと、やや不満ぎみでした。黒岩に到着するまでに4名の登山者にあったのにはちょっとびっくりしたがその後北尾根ではだれにも会わなかった。2月のこの時期を選んだ理由は大山で雪山気分が味わえるかなという期待もあった。しかし、まったくと言っていいほど雪はなかった。リュックのアイゼンが重く感じられる。まずはビバーク地の第一候補913Mの鉄塔をめざし、地図上の点線の部分をゆっくりゆっくり登っていく。しかし、道はしっかり踏み跡があり、迷う個所はなかった。ひとえに、山バカトリオ(決して3バカにあらず)さん達があらかじめ下見にいってくれたおかげである。北尾根は初めてである.いつも登っている大山とは趣が異なり、中々いいものだ。もみの木が多いのにはびっくりした。もちろん、杉もいっぱい。花盛りである。リーダーはぶつぶつ文句を言いながら鼻水と戦っていた。アップアップの登りが続く。14時に無線交信をする約束であったがいくらコールしてもK.tさんは応答しない。トラック野郎らしき人達の話がずーと続いて聞こえてくる。15時の交信も無理かなとあきれめていたら、ミズヒノ頭あたりで聞き覚えのある声が入ってきた。携帯になれた耳には新鮮で感動すら覚える。山では無線機が活躍します。西沢の頭を少し過ぎたあたりに絶好のビバーク地がある。本日はここまでとした。さっそく、2人用ツエルト、1人用ツエルト、4～5人用テントを張る。kさん達は試行錯誤しながらツエルトを張っていた。出来上がりをリーダーが点検したら、裏表に張っていることが判明した。分かりやすく説明すると、ゴアのカッパを裏返しに着て雨の中を歩くようなものだ。K.Tさんは、まあいいじゃないですか？と言っていたが単独行のk.Tさんはなぜかテントに寝ることになり、我々夫婦がツエルトに寝ることになった。テントを張り終え、下界をみると、ここが大山かとは思えないほどだ。まるで、遠くの山にきているような錯覚を覚える。山は登り方次第でいろんな顔をみせてくれる。裏を返すとどんな慣れ親しんだ山も気を抜いてはいけないということだ。心して登りたい。いろんなコースが予定されている、5月の大山集中が楽しみである。
すき焼きの宴会は終了し、ツエルト組はすぐに夢の中にはいった。夜間雨が降っているのかとおもうようなミストが顔にかかってきて目が覚めた。やはり、裏表逆ではこういう羽目になるのですね。教訓、「人の張ったテントではねるな！」 隣のテントの3バカさん達は11時ころまで盛り上がっていたとのことであった。

翌日は5時起床、6時半出発。大山山頂は晴れ。白く雪をかぶった富士山がきれいにみえた。ここから、大山南稜を下ることになる。単独行のKさんは東京マラソンの応援のため、16丁目で別れた。南稜は空いていて歩きやすいところであった。昨日はひたすら登って行ったが今日はひたすら下るという感じで小ピークをこえながら降りて行った。下りだからと軽く考えていたが結構ながかったなあという印象である。今回、一番、辛かったのはリーダーではなかったかと思う。ひどい花粉症に悩まされ気の毒であった。反して、S.kさんは絶好調、荷物をもうすこし持ってもらえば良かったくらいだ。鶴巻温泉について、弘法の湯で汗をながした。帰りの電車の窓から、登った山を眺めつつ、「よく歩いたなあ」と自己満足に浸りながら帰路についた。

＜おまけ＞　サンバカについて独断と偏見の紹介

S.Kさん。しいて言えばリーダー的存在。タバコ値上がりを期に、禁煙され絶好調。このごろは先頭を行くことが多く、「速すぎる」との苦情もでている。　酒が好きであるが、強いのか弱いのか、判別不能。座りながら寝ることを得意とする。

S.Tさん。頭脳派。入会当初はここまで頑張れる？とは、誰もが思わなかった。日ごろは無駄のない生活を心がけているが、山では人一倍水を飲み、汗をかく。やや効率悪し。

k.Tさん。ムードメーカー。どんな山行にも「なんで？」と思うくらい、思いザックを担いでいる。軽量化という頭はなく、「遭難しても3日間は快適に過ごしたい」が信念にある。他人への思いやり、サービス精神が旺盛。